



わかば

2019. 11. 9

(令和元年)

第19-28号

文責 校長 信國 寿敏

ホームページ <http://www.shokookai.org/gakkou.htm> 毎週火曜日更新

教育目標 「帰国後、日本の教育に円滑に適応できるよう、日本の学校における学習指導要領に沿った国語、算数(数学)の学力の維持、併せて生活・生徒指導を行う。」

重点目標 **一人一人が輝く教育** ～期待登校・満足下校～(2年次)

文芸作品コンクールに3名入賞しました。・・・おめでとうございます。

児童生徒が一生懸命に取り組んだ2019年度の海外子女教育財団「文芸作品コンクール」の結果が公表されました。本校からは、下記の3名が受賞しています。おめでとうございます。

また、応募してくれた児童生徒たちのおかげで、ポर्टランド日本人学校も学校賞を受賞することが出来ました。児童生徒の皆さん、本当にありがとうございました。

- 中1 難波 優風 くん 詩 「てがみ」 特選
- 中3 小嗣 ありさ さん 詩 「君への手紙」 日販アイピーエス賞
- 中3 石井 理奈 さん 短歌と俳句 優秀
 - ・短歌「教習所、夏のクラス・・・」
 - ・俳句「祖母からの・・・」



今回は、中3小嗣ありささんの詩と中3石井理奈さんの俳句をご紹介します。

詩 「君への手紙」
中3 小嗣 ありさ

あなたと出会って
約三年
最初は私にとって
「いくら手を伸ばしても
届かない存在」だった
いつも人に囲まれてる君だけど
仲良くなれて良かった
すぐに恋に落ちた
好きになった
大好きになった
でも
想いを秘めた
想いを告げて
この心地よい関係が
崩れるよりは
このままでいるほうが楽だ
卒業の日

泣いたり、笑ったり
色々な感情の混ざった中
告げようとした想いは
口から出てこなかった

下段へ

俳句
中3 石井 理奈

祖母からの
箱いっぱい
ひなあられ

涙が溢れて
先生に感謝を言い
友達にお互いさよならを告げ
最後に学校へ別れを告げようと
したとき
君は私に向かって、歩いてきて
私を抱きしめてくれた
君には小さな事だったのかも
しれないけど
私には大きな事だった
泣きながら、ありったけの
感情をつめて
君を強く抱きしめて
手から、体から
伝わるような
耳では聞こえない言葉を放った
「大好き」

6年生 作文

「未来がよりよくあるために」

吉田 理沙

私は、未来が平和になるために大切な事は、一人一人の努力だと思えます。一人一人が平和を望み、そのためにがんばる事は大きな力があります。

どれだけががんばっても、一人の市民の力は小さい。その一人が大きないきょうを作るのは、ほぼ無理なもの。市民が何千人も集まっても、いきょうをだすのは難しい。それは、私がテレビでデモの様子を見た時に思った事です。そのため多くの人が集まり、平和のためにがんばる事が平和への第一歩なのです。

「多くの人は平和を望んでいる。でも戦争はまだおこっているのではないか。」と言う人もいるかもしれませんが。でも、私が望んでいるのは、今、苦しんでいない人たちも平和のために努力する事です。今、私が住んでいるアメリカでは、戦争のために苦しんでいる人はあまりいないと思います。そのため、アメリカはよく戦争をしている国を助けています。そういう事で、私をもっともすばらしいと思うのは、みなさんが持つ「自分が恵まれているならば、恵まれない人を助ける。」と言う心がまえです。

私が住むオレゴンはアメリカで一番ホームレスが多い州です。そのため、多くの人たちが、お金や食べ物やドナートをしています。そういう事を見ると、それが平和への一歩だと思えます。

一人一人が平和のためにがんばる事。それは本当に平和につながるのでしょうか。それは、きっと、未来が少しずつよくなるための事なんですよ。



6年生 作文

「ゴミを分別する事は、よりよい未来への第一歩」

関根 有美子

未来がよりよくなるためには、ゴミを分別することが第一歩だと思う。私は、これはもつと良い環境につながると思う。

私は、色々な本を読んできた。その中でいくつかゴミに関する本を読んだ。ゴミの分別の事を書いていた本が一冊あった。リサイクルによって世の中が助けられる事が書いてあったのを覚えている。その時は読んだ後、別に何も感じなかったけれど、今考えてみるとちよつとした事だけでも、世界にとつては大切なのだと気づいた。このように未来をより良くすることが出来るのだ。

時々、私が買い物に行く時、ゴミ捨て場に「リサイクルとゴミを分けてください。」と、英語でサインがあったのを覚えていた。考えてみれば、ゴミの日にリサイクルともえるゴミを分けている事を今気づいた。私の家は、リサイクルとゴミを分別しているが、それだけで世界が少しでも良くなるのだ。

けれども、みんながゴミを分別しているわけではない。ほとんどの人がめんどうくさいか、わすれて分別をしない事がある。それで、私は道路とかたくさんの方が集まる所にリサイクルとゴミを分別する事を書いたサインを置くと良いと実感した。それだけではなく、人々にどうしてゴミを分別することが地球に大切なのかも説明をすれば、人々もなんとなく理由が分かり、きつと分別する事を覚えるかもしれない。私の身近な人が分別し、気をつけたりすると世界が少しでも変わるのではないか。

未来がよりよくなってほしい。世界が良くなってほしい。私にできる事は周りの人に注意する事だ。それで、私も気をつけることだ。単純なことに聞こえるかもしれないが、これで世界が変わる。よりよい未来になり、人々が世界を大切にしてくれると私は思う。



これまで6年生の未来のことを考えた作文を掲載してきましたが、作文を読んだりリサイクルやごみの処分の仕方を考え改めた方は確かにいます。保護者の方や学校事務局員もゴミの分別をしつかりとやろうとする声を聞くことが出来ました。

小さな一歩、小さな広がりかもしれませんが、6年生の呼びかけは読み手に届いています。

中学部2年 単元感想文

「世界で一番の贈り物」を読んで

金井 裕太郎

僕はこの作品を読み、戦争に対する思いが変わりました。

第一次世界大戦の後にも、大規模な戦争や内紛などの武力衝突が、世界でたくさん起こっています。そして、その争いにより、たくさんの方々が犠牲になりました。作中でモデルになっている第一次世界大戦では、約370万人が犠牲になっているとされています。

そして、さらに悲惨な事は、それらの人々の中には、戦争を望んでいない人達も相当数いたということです。作中のドイツ軍兵士、ハンス・ヴォルフも、そのような話をしています。ドイツ軍、イギリス軍の行動を見る限り、誰も望んでいないに違いありません。

幸い日本では、ここ七十年余り戦争が起こっていません。しかし、その間に世界では悲惨な戦争や内戦などが沢山あり、今も続いている所もあります。

令和となり、新しい時代となった今、今一度戦争について振り返ってみるのはどうでしょう。

【教科教員 田中先生のコメントから】

この単元を通し、ヨーロッパの兵士達のすばらしさ、戦争の悲惨さを学びました。結局、ジムと一緒にサッカーをした敵国に殺され、妻の元に帰ってきませんでした。ここに深い意味があると思います。これからは戦争のない国、世界であるよう次世代の人達に努力して欲しいものです。戦争の悲惨さ、平和の大切さ伝える作文が書きました。



中学部3年 単元感想文

「月の起源を探る」を読んで

奥田 桃花

私は、「月の起源を探る」から一つの事を学びました。

それは、仮説を立てる大切さです。仮説を立てることによって実際の結果と比べたり、なぜその説が通らないかを考え、また新しい仮説を立て、繰り返すことによってより最善の答えに近づけます。

私は日本の学校に通っていた時、理科の授業でよく実験を行っていました。実験の前に、毎回先生が生徒に仮説を立て、いわゆる実験結果の予想をする時間を与えていました。

私は、仮説を立てる理由も知らずに、ただの予想として、クイズ感覚で仮説を立てていました。ですが、この単元で仮説を立てていく筆者の考えに共感したり反論したりを繰り返して、最善の答えを導き出していく上で、中心となる仮説を置くことによって、仮説をもとにした最善の答えを出せるということを知りました。

私はこの単元で仮説を立てることの重要性を学び、仮説によって得られる最善の答えに気づくことができました。今年の九月から高校生活が始まり、仮説を立てる機会もより多くなることと思います。私は、この単元で学んだ仮説を生かして、高校の勉強にもしっかりととはげみたいと思いました。

【担任 田中先生のコメントから】

この単元で仮説を立てることの大切さを学ぶことができて良かったですね。その大切さと努力による経過によって最善の結果に近づくことができる。高校生活も目標に仮説を立て頑張ってください。良い感想文が書きました。



【文芸作品コンクールの補足】

【財団のホームページから要約】

○2019年度は38,620点ものご応募があり、4部門で497点が入選しました。

受賞者には、賞状と記念品が贈られます。また、優秀賞以上の受賞者には、優秀作品を掲載した「地球に学ぶ」が合わせて贈られます。

○日本人学校や補習授業校、また国際学校など224校から応募があり、その中から本校を含めた25校が学校賞に選ばれました。副賞として1万円分の図書をいただけます。

園児たちの喜びでいっぱい時間…エプロンシアターをしていただきました。^{ますうち かおり} 枡内 香織 様

本校園児の祖父母である枡内香織様がポートランドにお出でになられた機会に、園児たちにエプロンシアターをさせて頂きたいとのありがたい申し出がありました。またとない機会ですので、喜んでお願いをして、11月2日にご披露いただきました。誠にありがとうございました。

【幼稚部吉田先生の参観コメント】

持参されたエプロンシアターは、すべて手作りだそうで、桃太郎をはじめ、どれもがとても丁寧に作られてあり、感動しました。

みんなで「鬼のパンツ」を歌って踊ってから始まり、香織様のよく通る声で子供達に声かけされ、時折みんなで「桃太郎の歌」を歌いながら、エプロンの上やポケットから出てくる桃太郎のキャラクター達に子供達は釘付けで、大喜びでした。とても楽しい時間でした！

エプロンシアター以外にも、桃太郎の本も持参され、万全の事前準備で来ていただき、心から感謝申し上げます。

※エプロンシアターとは

舞台に見立てた胸あて式エプロンに物語の背景とマジックテープを縫いつけ、演じ手がポケットから人形を取り出してエプロンに貼り付けながら物語を演じる人形劇
(ネット情報から 校長)



現地校に日本文化である「おりがみ」の紹介…おりがみボランティアさんたち、ありがとう！。

ポートランド日本人商工会では毎年エリアを決め、日本文化の紹介や図書の寄贈を現地校にしています。昨年度は、バンクーバーエリアの学校に寄贈しました。今年は、Lake Oswego と Camas の二つの学区の学校に寄贈する予定です。そこで、昼食後、カフェテリアの一角にたくさんのおりがみボランティアの子どもたちが集まってくれました。現地校でおりがみの指導をしたことのある先生いわく、「やはり日本人学校の子供たちは、手先が器用ですね。現地校の子は、なかなか折るといふ細やかな作業が苦手です。」と言われていました。

35名ぐらいの子どもたちが熱心におってくれました。「鶴」あり「カエル」あり、「手裏剣」やフライドポテトの入れ物までありで、実に楽し気におってくれました。協力、ありがとうございました。

